

おとうさんの手

畔柳 有希

わたしのおとうさんは、大きな手をしています。そして、その手でたくさんのかんじやさんの命をまもってきました。

家では、おとうさんはきびしいです。少しでもおはしの持ち方が悪かったり、しせいがわるいとおこります。おとうさんがかえってくる音がすると兄とあわててかたづけをします。おとうさんが当直の日は、わたしは、ちらかしてもそんなにおこられないのでのびのびとします。ですが夜ねる時は少し心細くなります。

わたしは二回だけおとうさんがしごとをしているところを見たことがあります。かんじやさんにはとてもやさしいかおをしていました。そしてゆっくり大きなやさしい声で、おばあさんに話していました。やさしそうなおいしやさんのかおでした。わたしはおとうさんにびょうきをみてもらったことがあります。おとうさんの大きな手は、とてもあたたかくて、すごく安心になったのをおぼえています。きつと、おとうさんのしんけんな気持ちを手につたわってきたのだと思います。

おとうさんは、いつもいそがしく、休みの日でもしごとに

いくときがあります。だから家のことは、全部おかあさんがしています。けれど、うん動会やバレエの発表会など、おかあさんが色々なじゆんびでいそがしいときはおとうさんのおべんとうです。おとうさんの作るおべんとうは、おにぎりたまごやきです。おかあさんのおにぎりよりしつかりとにぎってありあじも少しちがいます。どうして、ちがうのか、わたしは、ふしぎに思っていました。ですが作っているところを見て、気がつきました。おにぎりを作る時、おかあさんは、サランラップを使うけれど、おとうさんは、手にしおをつけてにぎります。だから、しおの味がよくきいていて、おいしいおにぎりになるのです。そして形もとてもきっちりとした三角形で三口ほど食べられる小さなおにぎりです。わたしは、おとうさんの大きな手で作ってくれる、小さなおにぎりが大好きです。おとうさんの手は、いろんなことができるのです。

おとうさん、いつも、わたしたちのためにがんばってくれてありがとう。そしてわたしもおとうさんみたくになんでもできるあたたかい手をしたおいしやさんになりたいと思います。